

〈授業改善推進プラン 令和4年度第4学年 国語科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・語彙が少なく、問題文を読んだり、質問の意図を読み解いたりすることに課題がある。
- ・物語や説明文を読む機会が少なく、文章から想像したり、事実をそのまま書き抜いたりすることが苦手である。
- ・児童のおよそ40%が、文章で自分の考えを書き表すことに苦手感を持っている。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・日記、音読を継続し、漢字を書く、読む、習慣付けをし、語彙を使う練習をする。
- ・文章を書く機会を増やし、構成を考えた文章の練習をする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・語彙を増やすために、国語辞典を活用して様々な意味の言葉に触れる機会を多く作ったり、問いに対する答え方を提示したりする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①国語辞典等を活用し、様々な言葉に触れる機会を設ける。
- ②ノートに自分の考えを書き表す場を多く設定する。

<検証方法>

- ① ノートを活用して調べた言葉を記録して、様々な言葉に触れたことが見とれるようにする。
- ② めあてや問いに即した文章が書けているかノートで評価する。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・学習に対する意欲が高まった
- ・様々な言葉に触れることで語彙力が高まった
- ・語彙力が高まることで文章がスムーズに書けるようになった

<課題>

- ・自分の考えを書き表す方法が分からない

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・文章構成のしかたを提示し、自分の考えを書き表す方法を増やす
- ・考えをもつための視点を提示する

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・自分の考えをスムーズに書き表すことができる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第4学年 社会科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・資料から読み取る問題が苦手である。
- ・実際に統計を見たり、アンケートから結果をまとめたりすることに触れる機会が少なく、資料の読み取りポイントが分かっていない児童が多い。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・基本的な知識を身近な事柄と関連させて興味をもって考え、資料の見方、活用の仕方を習得し、基礎の定着を図る。
- ・「自分にできること」という視点での思考、社会参画の意識向上を図る。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・教科書に載っている資料だけでなく、様々な統計資料や映像資料を活用し、読み取る練習をする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①資料から読み取れることを記録する。
- ②ICT を活用し、実際の様子を見てイメージできるようにする。

<検証方法>

- ①ノートを活用し、資料から読み取ったことを書かせ、評価につなげる。
- ②新聞やパンフレットなどを作成し、得た情報を自分の言葉でまとめさせる。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・様々な資料を活用したことで読み取るべきポイントが分かってきた
- ・インターネットを効果的に活用できるようになった

<課題>

- ・具体的な資料がないと状況をイメージしにくい児童が多い

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・資料を提示し、そこから分かることをまず書き出して自分の考えをもってから全体で確認する
- ・様々な資料に触れる機会を増やす

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・必要な情報を資料から読み取り、書き表すことができる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第4学年 算数科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・令和4年度学力調査では、領域「数と計算」「測定」で全国平均を下回っていた。特に「たし算・ひき算」「長さ・かさ」「時こくと時間」に課題が見られた。
- ・繰り返し下がりひき算やたし算、かけ算九九といった基礎的な計算を正確に解く力を身に付けさせる必要がある。
- ・より具体的にイメージしやすいよう、既習内容や問題を可視化する必要がある。
- ・個人差については個別の支援が必要である。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・日常生活での必要性や活用を意識させ、数字や計算で表す良さを実感できるようにする。
- ・測定の考えを用い、図形を構成する要素に着目することで、公式の導き出し方を身に付けさせ、問題と向き合ったときに公式を想起できるようにする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・授業のねらいにつながる既習内容を確認し、児童が主体的に自力解決できるようにする。
- ・具体物や半具体物の操作を通して、図形の構成や計算の意義を感覚的に捉えられるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①基礎的な内容の反復学習を行い、定着を図る。
また、達成度を記録し、把握しておく。
- ②自力解決とペア学習の時間を多く設け、半具体物や図、言葉を使って解いたり、説明したりする。

<検証方法>

- ①授業の始めに、既習内容の確認を行い、基礎的な力の定着を図る。ペアで既習内容の問題を解き、ペアで正答を確認する。
- ②ペア学習を計画的に取り入れ、自力解決やペア学習でできるようになったことをノートに振り返り、「わかる」「できる」を体感できるようにする。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・反復学習を行うことで、基礎的な内容の定着を図ることができた。
- ・ペア学習を多く取り入れることで、理解を深めることができた。

<課題>

- ・考えを説明することに苦手意識をもつ児童もいる。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・ペア学習を実施する時には、事前にねらいを児童に伝える。
- ・どの時間においても「わかる」「できる」姿を計画する。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・粘り強く問題を解く児童の姿。
- ・主体的に楽しみながら学ぶ児童の姿。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第4学年 理科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・自身の予想と実験結果を照らし合わせ、結論を導き出すことに苦手感がある。
- ・疑問をもっても語彙が少なく、言葉でうまく表現ができない傾向がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・観察や実験など体験を通して学習の意欲、理解を深める。
- ・観察や変化の違いなど見る視点をもたせ、表現する力を伸ばす。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・必要感をもたせるために、「なぜ？」を引き出す導入の工夫を行う。
- ・予想と理由を分けて考えることで、「難しい」という考えをなくすようにする。
- ・思考を整理するために、ノートに明確に自分の考えを書き表せるようにする。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①予想と理由を分けて考えさせる。
- ②結果をもとに分かることをノートに記入し、単元の終わりには結論までまとめる。

＜検証方法＞

- ①ノートに記入させ、評価につなげる。
- ②結果を全体で確認し、そこから分かることを記述させ、教科書記載の内容と照らし合わせて考えを深める。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・実験結果から分かることを日常生活や自分の体験したことと照らし合わせて書き表せるようになった。
- ・学習に対する意欲が高まった。

＜課題＞

- ・結果を生活場面に置き換えて考えることが苦手な児童がいる。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・根拠のある予想を立てられるようにするために前時の実験から分かったことを導入で復習する
- ・書くべき内容について事前に指導する

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・日常生活から疑問を見だし、生活と照らし合わせて考えることができる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第4学年 音楽科〉

<p>1. 『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現する上で解決すべき課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽科の学習では、児童の音楽活動と離れた個別の知識の習得や、技能の機械的な訓練に偏ってしまう傾向がある。音楽活動と関わらせながら知識や技能を習得することで「わかった」と実感したり、児童が主体的に学び、思考・判断・表現することで「できた」と感じたりすることができるようにする必要がある。 個別の活動や一斉指導だけでは「わかった」「できた」という実感が少なく、学習意欲が向上しない傾向がある。 自分の音楽表現や発言に自信をもてない様子があり、「わかった」「できた」という経験を積み重ねて自信をもたせる必要がある。 			
<p>2. 課題改善に向けた取組状況</p> <p>(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達と学び合いの中でリズム活動や合奏を行うことで、主体的に取り組む児童が増えた。 歌唱や鍵盤ハーモニカ活動は2学期のみのため、基礎・基本を身に付ける必要がある。 <p>(2) 今年度実践している『『わかる』から『できる』を体感する授業』を実現するための工夫等</p> <ul style="list-style-type: none"> 音楽との一体感を味わったり、友達同士で関わり合ったりして意欲を高めるため、体を動かす活動やペアやグループでの活動を随時取り入れている。 曲を聴いたり楽譜を見たりして曲の特徴についての気付きを深めたり、様々な表現方法を試したりして、曲の特徴を捉えた表現ができるようにしている。 個別に表現の技能を見取る機会を適宜設け、学習内容の達成状況を把握し、その後の指導に生かしている。 			
<p>3. 課題の改善に向けた方策と検証方法</p> <table border="0" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜方策＞</p> <p>①曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について気付きを深めたり、それを捉えた表現をしたりすることができるようにする。</p> <p>②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。</p> </td> <td style="width: 50%; vertical-align: top;"> <p>＜検証方法＞</p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲の特徴についての気付きや表現の工夫について深めることができたか確かめる。</p> <p>②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。</p> </td> </tr> </table>		<p>＜方策＞</p> <p>①曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について気付きを深めたり、それを捉えた表現をしたりすることができるようにする。</p> <p>②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲の特徴についての気付きや表現の工夫について深めることができたか確かめる。</p> <p>②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。</p>
<p>＜方策＞</p> <p>①曲を聴いたり楽譜を見たりして感じたことや気付いたことを発言したりワークシートに記入したりし、曲の特徴について気付きを深めたり、それを捉えた表現をしたりすることができるようにする。</p> <p>②短いフレーズを一人ずつ歌ったり演奏したりし、技能の習得状況を把握して、必要に応じて個別指導を行うなどその後の指導に生かす。</p>	<p>＜検証方法＞</p> <p>①発言内容や記述内容を記録し、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、曲の特徴についての気付きや表現の工夫について深めることができたか確かめる。</p> <p>②演奏聴取や映像・録音等での記録を行い、年間を通した児童一人一人の変容を記録して、必要な技能を習得することができたか確かめる。</p>		
<p>4. 検証結果(成果と課題)</p> <p>＜成果＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 読譜指導と並行して楽譜を見て気付いたことを共有する場面を設けたことで、曲の特徴を視覚で捉え、表現に生かす姿が見られた。 歌唱や器楽表現を個別に見取る機会を設けることで、その後の個別指導に生かすことができ、表現活動への意欲が高まった。 <p>＜課題＞</p> <ul style="list-style-type: none"> 習得した知識や技能を次の学習に生かすことが難しい場面がある。 	<p>5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項</p> <ul style="list-style-type: none"> 技能習得に時間がかかる傾向があるため、教材選択を工夫したり個別指導を重点的に行ったりする必要がある。 発言やワークシート等で感じたことや気付いたことを表出する力は身に付いているが、選択肢を与えたり個別の声掛けをしたりすることや、ICTを活用することなど引き続き手だての工夫をしていくと良い。 		
<p>6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿</p> <p>感じたことや気付いたことを生かし、思いや意図をもって表現したり、音楽のよさや面白さを味わいながら聴いたりする学習に主体的に取り組むことができる児童。</p>			

〈授業改善推進プラン 令和4年度第4学年 図画工作科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・図画工作科の特に技能面においては、『わかる』から『できる』という一方的な視点だけではなく、『できる』から『わかる』という学びのプロセスを体験することもある。『わかる』と『できる』が相互作用的に働いているという柔軟な視線を持ちながら、学習活動を計画したり、児童一人一人の取り組みに対応したりする。
- ・様々な技法や表現方法を体験して、工夫して表現する力をさらに高める。
- ・得意な発想方法だけではなく、様々なアイデアの出し方や表現の深め方があることを知り、さらに発想の広がりをもたせる。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・活動や作品を紹介することにより、発想や工夫の広がりが見られた。
- ・基礎基本の定着のため材料や用具の使い方は、使用するたびに確認する必要がある。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・材料や道具などの使い方を掲示やICTを活用して確認し、試せる場を設定する。
- ・児童の作品紹介を紹介したり、題材のテーマ設定などを工夫したりして、様々なアイデアの出し方や表現の深め方にふれる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ① 掲示やICTを活用しての材料や道具の使い方や工夫の仕方の確認を行い、十分に試せる場を設定する。
- ② 題材のテーマ設定などにかたよりにないように計画を立て、導入などでそのねらいをしっかりと伝える。

<検証方法>

- ① 児童や作品観察。全児童が材料や道具を正しく扱え、どんな小さな工夫でも良いので自分なりの工夫をできるようにする。
- ② 児童や作品、ワークシートの観察。全児童が毎回の授業でねらいを理解し、様々なテーマ設定などにふれられるようにする。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

- ・基本的な材料や道具の扱い方を掲示やICTを活用することにより正しく扱うことができていた。
- ・テーマにそって様々な工夫や発想をすることができていた。

<課題>

- ・総合的に材料や道具を扱える力をさらに伸ばしていく。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・さらなる基本的な材料や道具の扱い方の定着のために掲示やICTなどを活用して取り組んでいく。
- ・限定的なテーマなどにしすぎて、児童の発想が制限されないようにする。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

様々な技法や表現方法を活用して、工夫して表現できる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第4学年 体育科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業を実現する上で解決すべき課題

- ・より具体的に課題を捉えたり、めあてを設定したりすることに課題がある。
- ・体育における「理解」の重要性を実感することに課題がある。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・握力を高めるために日常的につかむ、にぎる運動を取り入れる授業の推進
- ・握力や筋力を高めるために固定施設や鉄棒などの器具、遊具の活用をする。

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業を実現するための工夫等

- ・ICT機器を活用し、参考になる映像と自分の動きを比較することで違いを具体的に見つけられるようにする。
- ・学習カードを用いて、自分の課題から次の学習のめあてを設定させるようにする。技の習得をしたり勝利したりするために効率的な方法を思考する過程を通じ、『わかる』ことの重要性を振り返り、実感させる。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

<方策>

- ①自身と手本との比較の際に ICT 機器を活用する。
- ②学習カードを活用した振り返りを行う。

<検証方法>

- ①学習カードの振り返りによる見取り。身体の部分まで具体的に意識して振り返ることができるようにする。
- ②学習カードの振り返りを基に次時の学習のめあてを立てることができるようにする。

4. 検証結果(成果と課題)

<成果>

学習カードで自身の技の達成度を振り返り、見つけた課題を次の練習のめあてにすることで、振り返りの質が練習の質につながることを実感させることができた。

<課題>

時間の確保。映像を見ることができるようになるための指導の時間が必要。
環境整備。体育館でタブレットを使うためにポケットWi-Fiが必要だったが、

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・実態の把握。子供の実態を見ずに課題に合わない手立てを講じると児童だけでなく指導者も困り感が募る。
- ・単元計画。教材研究を重ねた上での授業にすることで、段階ごとに身に付けさせる技能が明確になり学習の積み重なりによって初めて「わかる」「できる」が達成される。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

振り返りの重要性を忘れず、課題や意識したいポイントを見付けて、毎時間自分のめあてをもつ児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第4学年 道徳科〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・日常生活の中から、様々な場面や行動に価値づけを行い、柔軟な人間性を養えるようにする。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・身近な場面から気持ちや行動の意図を考えさせ、イメージしやすくする。
- ・思考を整理するために、ワークシートを活用する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

＜方策＞

- ①身近な出来事から気持ちを想像させる。
- ②毎時間自分の考えを書く時間を必ず確保する。

＜検証方法＞

- ①子供たちが出来事を「自分のこと」に置き換えて考えられる場を設定する。
- ②出来事についての感想にならないよう、考えたことやこれから実践していきたいことを書くようにする。

4. 検証結果(成果と課題)

＜成果＞

- ・自分だったらどうするか立場を置き換えて考えることができるようになった
- ・考えをより具体的に書き表し伝えることができるようになった

＜課題＞

- ・実際に体験していないことはイメージがわきにくく、考えを書くのに時間がかかる

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・具体的な場面をイメージさせて自分の考えをもてるようにする
- ・自分だったらどうするか考え、他人ごとにならないような授業展開

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

- ・自分の行動を振り返り、よりよい生活を送ることができる児童。

〈授業改善推進プラン 令和4年度第4学年 総合的な学習の時間〉

1. 『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現する上で解決すべき課題

- ・小笠原ならではの文化や伝統に触れ、それらを継承していこうとする気持ちを養う。

2. 課題改善に向けた取組状況

(1) 令和2年度授業改善推進プラン記載内容

- ・記載なし

(2) 今年度実践している「『わかる』から『できる』を体感する授業」を実現するための工夫等

- ・「目的意識」をもたせる。
- ・学んだことを生かして、成果として発表（掲示）できる場面を設定する。

3. 課題の改善に向けた方策と検証方法

〈方策〉

- ①学習意欲を高めるために、導入でゴールを決め、具体的な目標をもてるようにする。
- ②学習したことを継承していくためにできることを考え、実行できるようにする。

〈検証方法〉

- ①ワークシートを活用し、ゴールまでにどのような計画で動くか考えさせ、毎時間振り返りを書くことで活動の成果と課題を見えるようにする。
- ②外部機関とも連携しながら、学んだことを表現できるよう環境を整えていく。

4. 検証結果(成果と課題)

〈成果〉

- ・学習の導入でゴールを共有したりやワークシートを活用したりしたことで、児童が課題意識や目的意識をもって取り組むことができた。
- ・外部機関とも連携し、学習したことを生かして課題を解決する力が身に付いた。

〈課題〉

- ・小笠原の文化や自然を継承していこうという意識をさらに高めていく手だてを考える必要がある。

5. 令和5年度(次学年)の学習指導において特に留意すべき事項

- ・外部機関との連携の状況により一つの単元の学習が分割されて期間が空くことがあり、連続性をもたせるためにワークシートを活用したり、適宜振り返りを行ったりした方が良い。

6. 令和5年度(次学年)末に期待する児童(生徒)の姿

小笠原ならではの文化や伝統に触れ、それらを継承していこうとしたり、それらに関わる課題を解決したりする児童。